

研究キーワード

水産資源、魚類の初期生態

太田 太郎

OHTA, Taro

副学長補佐（教育，入試，研究，地域連携・国際交流，企画・評価担当）
准教授所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ oota-t@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 鳥取学、麒麟の知、漁業資源保全学、水域生態学

■研究者略歴

1997（平成 9）年 3月	京都大学農学部水産学科卒業
1999（平成11）年 3月	京都大学大学院農学研究科修士課程応用生物学専攻修了
1999（平成11）年 4月	京都大学大学院農学研究科博士後期課程応用生物学専攻進学 日本学術振興会特別研究員（DC 1）採用
2002（平成14）年 3月	京都大学大学院農学研究科博士後期課程応用生物学専攻研究指導認定
2002（平成14）年 4月～	鳥取県職員に採用 所属：農林水産部水産振興局水産課 鳥取県栽培漁業センター
2016（平成28）年 3月	鳥取県水産試験場 など
2004（平成16）年 3月	京都大学大学院農学研究課応用生物化学専攻博士課程修了（農学博士）
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター特命准教授
2019（平成31）年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2020（令和 2）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授 兼 環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■取得学位 博士（農学）（京都大学）

■専門分野 魚類生態学、水産資源生物学、漁業制度及び漁業法令

■現在の研究テーマ ・水産生物の資源生態 ・鳥取県における漁業制度

■所属学会 日本水産学会 ほか

■資格 潜水士、日本さかな検定1級

Data

■研究等活動

【著書】

- ・「有明海のスズキの初期生態を探る」稚魚学—多様な生理生態を探る（共著），株式会社生物学研究者，東京，2008，pp. 277-286
- ・「耳石による回遊履歴追跡」，スズキと生物多様性（共著），恒星社厚生閣，東京，2002，pp. 91-102.

【論文】

- ・鳥取県東部岩美町沿岸域および河口域に出現する魚類仔稚魚。（共著）鳥取県立博物館研究報告 2025：62 1-13
- ・日本海南西部鳥取県沿岸で漁獲されるマアジの産卵期と成長。（共著）水産技術：2024：1-8.
- ・鳥取県千代川水系におけるカジカ中卵型の食性。（共著）水生動物 2024：p. AA2024-18.
- ・鳥取県千代川水系におけるカジカ種群の分布域と回遊。（共著）水産学会誌：2023：89：365-367.
- ・鳥取県沿岸海域で採集したアユ仔稚魚の耳石日周輪解析による孵化日と初期成長の推定。（共著）水産増殖 2022：70：343-352.
- ・湖山池沿岸部におけるテナガエビの出現動向。（共著）鳥取県立博物館研究報告 2022：59 1-8
- ・鳥取砂丘海岸におけるペットボトルを指標とした海岸漂着ごみの挙動に関する気象、海象要因の解析（共著）公立鳥取環境大学紀要 2021：PR1-PR8.
- ・鳥取市における漁業振興にかかる諸課題の抽出。（単著）公立鳥取環境大学紀要 2019：16 RE31-35.
- ・水産物に関する消費者アンケート調査について。（単著）公立鳥取環境大学紀要 2019：16 RE37-43.
- ・Numerical simulation of the migration and distribution of diamond squid (Thysanoteuthis rhombus) in the southwest Sea of Japan.（共著）Fisheries Oceanography 2009：19：63-75.
- ・Tagging studies on the diamond squid (Thysanoteuthis rhombus) in the western Sea of Japan.（共著）Bulletin of the Japanese Society of Fisheries Oceanography 2008：72：30-36.
- ・Migration of Japanese temperate bass Lateolabrax japonicus juveniles within the Chikugo River estuary revealed by δ 13C analysis.（共著）Marine Ecology Progress series 2008：358：245-256.
- ・Distribution of Japanese temperate bass, Lateolabrax japonicus, eggs and pelagic larvae in Ariake Bay.（共著）Ichthyological Research 2007：54：367-373.
- ・稚魚期を有明海湾奥部河口域で過ごしたスズキの成長。（単著）海洋と生物 2007：29：33-39.
- ・Effects of river flow on larval growth and survival of Japanese seaperch Lateolabrax japonicus (Pisces) in the Chikugo River estuary, upper Ariake Bay.（共著）Journal of Fish Biology 2006：69：1662-1674.
- ・有明海湾奥部の干潟汀線域に出現する仔稚魚。（共著）魚類学雑誌 2002：49：109-120.
- ・筑後川河口で採集されたアリアケシラウオ仔魚の形態。（共著）魚類学雑誌2002：49：103-108.
- ・Use of otolith microanalysis to determine estuarine migrations of Japanese sea bass Lateolabrax japonicus distributed in Ariake Sea.（共著）Fish. Sci. 1998：64：740-743.
- ・Otolith Sr concentration analyzed by PIXE in Ariake estuary dependent sea bass juveniles.（共著）Int. J. PIXE 1997：7：147-151.

■社会貢献活動

- ・千代川河川アドバイザー会議（国土交通省中国地方整備局）委員（R6～）
- ・公益財団法人 鳥取県栽培漁業協会評議員（R6～）
- ・公益財団法人鳥取県魚の豊かな川づくり基金評議員（R6～）
- ・鳥取県水辺の環境保全協議会 委員（R4～）
- ・鳥取県漁業協同組合外部アドバイザー（H28～）
- ・鳥取県沖合底曳網漁業協会外部アドバイザー（H28～）

【講演等】

- ・公立鳥取環境大学 ジオパークサイエンスカフェ「チリメンモンスター教室」（R5年7月）
- ・公立鳥取環境大学 市民公開講座「藻場（もば）の大切さを学ぼう」（R5年7月）
- ・市民公開シンポジウム：有明海の生物とそれをとりまく環境の現況「遡河回遊アンチョビー：エツの生活史の可塑性」（R4年11月）
- ・第43回市民フォーラム「鳥取の海を知る」～科学的視点から健康増進問題・生態環境問題の解決へ～ 2022年10月22日 日本農芸化学会中四国支部「豊かな水産環境づくりに向けて」（R4 10月）
- ・第18回全国漁港漁場整備技術研究会「基調講演 多様で豊かな漁場環境保全のあり方について ～山陰鳥取の海を実例に～」（R1年10月）

【集中講義】

- ・非常勤講師：水圏・多様性生物学特論（島根大学生物資源科学部）（R6年9月）
- ・非常勤講師：京都大学大学院農学研究科（修士課程）応用生物学特別講義Ⅶ（R1年6月）